

第5回 学校運営協議会 議事録

開催日：令和5年11月11日（土）15：00～16：15

出席者：鬼澤会長、内藤委員、蕨南委員、青木委員、蘆塚委員、下河委員、伊勢委員
事務局：廣野、山田

欠席者：望月委員、和田委員、秋山委員

1、会長挨拶

音楽会の興奮冷めやらぬ中でのCS開催です。子どもたちが多い恵まれた環境で、音楽会を開催した。後ほど、先日、学校運営協議会連絡会に出席した報告をさせていただきます。インフルエンザが流行している。気を付けて生活していきましょう。

2、学校長より

音楽会をご参観いただき、ありがとうございました。コロナの影響により、約3年、このような、児童が表現をしていく場がなかった。経験不足を補うために一生懸命に練習に取り組んだり、オーディションで落選したりする挫折を通して、子どもたちは大きく成長した。これからも行事を通して成長を促したい。

3、議題

・音楽会の感想（委員から）

（蕨南委員）

すごく感動的な音楽会だった。自分の子どももいたが、心に響いた。音楽的にも多彩で、演出が凝っていて、それを指導されて先生方は凄いと思った。子どもたちが「表現したい！」という気持ちが伝わってきた。今後も止めることなく進めていきたい。多くの楽器に触れる機会があるのはすばらしい。

（青木委員）

6年生の発表が非常に盛り上がっていた。音楽専科の先生の熱量が凄い。6年生の最後の言葉が素晴らしかった。6年生がやはり凄い。

（蘆塚委員）

低学年が先生の指示をしっかりと聞いているし、全員がこのイベントに期待していた。先生方の指導力は素晴らしい。やはり6年生が凄い。それを下の学年が見て、その違いを実感するのがとても良い時間だった。

(下河委員)

金・土と見させてもらった。やはり、土曜日の方が子どもたちが緊張している様子が伝わってきた。大事な経験。金曜日に6年生が入場してきた時の下の学年からの声援すごくて、とてもいいと思った。保護者の席取りの様子を見ると、どうしても自分の子どもだけに目が行く傾向が見られた。自分の子だけでなく、友達や他の学年の様子も見られるとよいと思う。近隣に中学では、YouTubeで配信している。そのような取り組みもあってよいのではと思う。

(鬼澤会長)

低学年と高学年のよさがそれぞれよく出ていた。技能はもちろん、元気さなども学年の特徴が出ていた。6年生の「みんなで心を一つにして掛け替えのない時間を共有できた。」という言葉が印象的だった。音楽は素晴らしい。教育効果が高いと感じた。

(内藤委員)

声を出すときに、おへそに手を当てて、声を出すことを指導してほしいと感じた。肺呼吸で出す声と、お腹から出す声は重さが違い、声の通り方も違う。

- ・令和5年度杉並区教育委員会教育調査アンケートについて
QRコードから入力を。

- ・杉並区学校運営協議会連絡会報告

(鬼澤会長)

区内全ての学校が揃っての連絡会。教育長から、杉並区は全国でも先進的に特別支援教育が進められているという話があった。

昭和50年から特殊教育学校として設置が義務化され、平成19年から特別支援教育として現在にいたる。

特別支援教育課長から、通常級と分離せずに、一緒にやっていく考え方の説明があった。肢体・視覚・聴覚など、様々あるが、障害の種別にかかわらず教育を受けられる権利がある。発達障害に対して、どのように対応・支援していくかが課題となっている。杉並区には、全ての学校に特別支援教育の体制がとられている。(チームとしての対応)一方で人手不足もあり、ボランティアに頼っている側面もある。教員のみだけでは足りない状況になっている。CS委員の皆さんにも各校の状況を見てもらうことも必要である。

済美養護学校の生徒による「ふれあいアートギャラリー」のついで紹介があった。今回の連絡会の様子は、YouTubeで見られる。

(伊勢校長) 他の区市町村の様子を聞くと、杉並区は手厚く特別支援教育を行っている。が、現場では、まだまだ対応しきれていないとは言えない。多数の中でなじめず落ち着かない児童への不満が大きくなり、その対応で学校が疲弊しないようにしていきたい。

(鬼澤会長) 発達障害のある児童の行動の背景にある特徴として、他人に「かまってほしい」という心理があると聞く。そうした気持ちに応じあげると落ち着くことが多いという。

(廣野) 特別支援教室が毎週木曜日にある。ランチルームを使用しているが、本来の使用目的と違う。場所が足りない状況を何とかしたい。

(内藤委員他)

児童館も非常に手狭になっている。増築校舎の学童の運営について質問したが、明確な回答は得られていない。現在の児童館と増築校舎の学童の運営について明確に知りたい。現在の学童に100名、増築校舎の学童に130名くらいのキャパが想定されている。

(鬼澤会長) 区がこれらの件についてパブリックコメントを求めている。学童の必要性が高い。学童をもっと学校の近くにという意見があるが、これまでのように児童館の役割も必要であるという方向で検討されている。

(下河委員) 児童館で活動しているパオというNPOの手伝いをしている。職員が「ここは第2のふるさと」という思いで、乳幼児を受け入れている。このことから、児童館の存在は大きい。児童館存続の要望も多い。

(内藤委員)

地域の盆踊りの来場者数を見てもわかる。イベントの基盤が児童館となっているという事実がある。地域が協力して、子どもの安全全てを含めて企画・運営した。

4、その他、事務連絡

次回、令和6年1月20日(土) 11:00～

25日にファミリー会主催で、乗馬体験会を行う。(蕨南委員)

17日、4年生を対象に朗読の授業を行う。(鬼澤会長)

21日、3年生の授業でCSについて話す。(下河委員)